

第21回 山梨県介護老人保健施設大会抄録用紙

演 題	排泄用具の見直しから生まれる相乗効果
副 題	肌トラブルとコスト面の改善

フリガナ	イチノミヤケアセンター
施 設 名	いちのみやケアセンター
フリガナ	カイゴシヨク・サカモトチアキ
発表者(職名・氏名)	介護職・坂本千明
フリガナ	シヨクインイチドウ
共同研究者	職員一同

【はじめに】

高齢者の中には筋力低下や障害の為オムツの使用を余儀なくされている方もいる。排泄のケアの二次的な目的として、オムツでの排泄を余儀なくされた高齢者に対する衛生的管理、快適性の提供が必要とされてくる。当施設のオムツ使用者は平均30人おり、使用者のなかでも20%の利用者様に肌トラブルが見られ、そのようなオムツ使用者の快適性向上を目的とし、日中・夜間を含め不快感の軽減を図ろうと今回はオムツ使用者に焦点をあて、パットの種類の見直し検討を行った。今回はその経過と職員の意識の変化等の結果がみられた為報告する。

【目的】

オムツ使用者の不快感軽減を図り QOL 向上を目指す。

【実施内容】

- ① ・オムツ使用者の肌トラブルが見られる方と不快感、夜間不眠傾向にある方をピックアップ。
・利用者様ごとの症状や訴えを聞き取り、集計後、委員会にて考える要因を予測。
- ② ・オムツメーカーのアドバイザーに排泄委員会に参加していただき、情報の共有を行う。
・肌トラブル、不快感の要因として考えられた「吸収性」「通気性」「摩擦」に対し適していると思われる製品の検討と洗浄液での陰部洗浄実施検討。
・パットの当て方等の技術指導の実施。
・パットと新しい陰部洗浄液の使用により通気性、摩擦軽減、排泄物質の皮膚表皮の保護が図れないか検討実施を行う。
- ③ 採用予定の製品に対して試用期間を設け、肌トラブル、不快感が軽減されているかアセスメントを実施。
- ④ アセスメントを行った結果、肌トラブル、不快感の軽減が見られ利用者、職員共に好評価を得られたため、新製品への完全移行を決定する。

【結果】

利用者様のオムツ弄りや痒み不快感の等への訴えが減少され、皮膚炎や軽い発赤などの症状が見られた利用者様も徐々に軽減されている様子にある。またオムツアドバイザーのアドバイス等により、職員の技術向上や意識の変化に繋がられ、特に新人職員に対してスキントラブル予防や排泄用具の選定への意識的变化に繋がられたのが大きい成果であったように思う。そして今回の取り組みのもう一つの成果としてパット変更を行いアセスメントを実施して日中、夜間と分け使用する製品を統一したところ、前年度比べてパットの利用率に変化が見られた。アセスメントの結果により、利用者ごとの排尿量に適したパットを選択する事により、全体として年間前年比7.5%のコスト削減に繋げることができ結果として相乗効果が得られた。

【考察とまとめ】

尿量の測定を行うことで個々の排泄パターンの把握に繋がり、また汚染状況の確認が行えたため適切な排泄用具(パット)の選択が行えたように思う。また陰部洗浄の洗浄液も新たに使用を行うことにより、以前よりオムツの排泄後表皮に当たる不快感などが軽減されたように思われ、夜間のオムツ弄りなどの軽減、安眠にも繋がったように思えた。今後もこのようなQOL向上に繋がるよう、個々の排泄パターンに添ってその方に合った適切な排泄ケア、快適性向上を行っていけるよう継続し努力していこうと思う。